

小平青年会議所（略称“小平 JC”）が東日本大震災の際にさまざまな支援活動を繰り広げたことは未だ記憶に新しいところです。宮崎進さん（第31代理事長）、信山武蔵さん（専務理事）、磯山亮さん（副理事長）を、大沼町の泉蔵院内にある同会の事務所にお訪ねしました。

◆成り立ちと特性

1984年に創立された小平青年会議所は、昨年30周年を迎えました。都内には24の青年会議所があり、また全国には700余りあるそうです。青年会議所の原型は、1915年アメリカのセントルイスで生まれた青年活動グループで、全世界に26万人の会員を擁する世界最大の青年団体とのこと。OBの数は250万人以上とも言われています。

組織の特性のひとつは年齢制限で、入会資格は、20～40歳未満の、市およびその周辺に在住勤務の品格、良識ある青年。これによって「常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっている」（同会ホームページより）とのこと。現在、小平青年会議所の会員は男女28名、事業主から市議、音楽家からサラリーマンまで多様な職業の方々があります。そしてもうひとつの特性は、理事長以下すべての役職は1年で交代すること。これによって会員はさまざまな役職を経験し、豊富な実践経験を積むことができ、その成果をそれぞれの活動にフィードバックさせていけるとのことです。

◆多彩な活動を展開

小平青年会議所では、3つの信条「奉仕」「修練」「友情」を基本に、その年の理事長の所信に基いて活動計画を立てます。基本的に毎月活動があり、その事業費は自主財源です（入会金20,000円、年会費96,000円）。

青年会議所といえば「わんぱく相撲」ですが、近年は恥ずかしがる子どもが多く、2008年からは「学校対抗わんぱくなわとび甲子園」を実施し、昨年は約300人が参加したそうです。それ以外にも、「小さな平和運動」や「手打ちうどんづくり大会」、「大切な命の写真展」など、創立以来多彩な活動を実施してきました。

2008年に法人格を取得してからは、公益性のある事業も数々展開しています。今年の活動テーマは「協働」。まちがよくなるには、地域の団体や家庭がその垣根を越えて協力してまちづくりをやる必要があるという思いで、活動ごとにその目的を達成するためにどこの団体と一緒にやったらいいかを考えるそうです。先日4月20日に行われた「こだいらっ子かるた大会」ではシルバー大学の方々にも審判をお願いしたとのこと。また、地元な

らではの利点を活かし、5月にはFC東京のグラウンドで「心のパスをつなぐ親子サッカー教室」を開催する予定です。



こだいらっ子かるた大会
白熱の試合！

◆つながりは宝

入会のきっかけをお聞きしたところ、仕事関係の知り合いから「付き合いの幅が広がるよ！」と勧められたり、最初は活動の参加者だった人が「仕事を越えて友達ができる」と思って入会したり、とのこと。「本業を持ちながら、この活動のために会議や準備の時間を取るのはかなり忙しいのでは？」との問いには、「その時間をいかに作るかということも勉強です」と前向きな言葉が聞かれました。

40歳で“卒業”した方々で作るシニアクラブというOB会もあり、現在の事務所も、OBである泉蔵院住職のご好意で借りています。横のつながりと、年齢幅のある縦のつながりは、地域で暮らしていく上でとても大きな宝と言えるでしょう。

また、全国各地の青年会議所との連携も注目に値します。東日本大震災でのすばやい支援活動も全国組織の賜物。被災地の青年会議所や社協との連携プレーで、刻々と変化する状況に対応した機動力はとても大きなものでした。さらに連携は海外にも及び、昨年の台風30号によるフィリピンの被害に対し、東日本大震災時に差し伸べられた恩に報いるべく、募金を行い現地に届けたということです。

地域から必要とされる団体として諸団体と連携しながら活動を展開していく小平青年会議所に、今後も注目したいと思います。

（取材：伊藤、田原 文責：田原）

一般社団法人小平青年会議所
〒187-0001 小平市大沼町 5-9-8 泉蔵院内
☎042-343-4855 FAX.042-316-7785
<http://www.kodairajc.ne.jp/>